

新歓行事

たけなわ

今年も「新入生のつどい」を皮切りに新一年生の入学を祝う数々の行事が行われている。新歓実行委員会をはじめとする各団体は早くから準備を行い、例年通りの企画に加えて新しいアイデアを盛り込むなどして新歓行事の活性化につとめている。

以下に今までに行われた新歓行事の内容や成果を紹介しよう。

入学式

去る四月六日、桜が満開に咲き誇るなか、平成四年度学部入学式が行われた。男子二百七十三名、女子二百九名、合計五〇二名の新入生たちが、やや緊張した面もちで入学式に臨んだ。

午前十時に始まった式は、学長式辞、新入生代表宣誓、理事長祝辞、学生自治会代表挨拶などを経て、進行された。合唱団やハルモニオ管弦楽団の素晴らしい演奏に、これから始まる大学生活への期待が十分に高まったところまで式は終了した。

新入生には、この先の学生生活が個性豊かで、有意義なものになるよう努力することを期待する。

キャンパス

四月一日から三日にかけて新歓実行委員会主催による新歓キャンパスが行われた。このキャンパスの主眼は入学前に友人を作り、新入生の不安を取り除くことにある。上級生たちは、一月以上前から準備を進めてきた。

初日はあいにくの曇り空にもかかわらず、新入生の参加者は百人を超えた。その熱気によって、後半は天気も快復し大学セミナハウスには東東生の活気があふいていた。

新入生のつどい

去る三月三十一日、新入生のつどいが多数の参加者の中開催された。初めに全体会として大木専務と志田教授の講演、スライド上映、組織部の紹介等が行われた後、二十一年の班に分かれて昼食、店舗見学、ゲーム等が行われ、上級生と新入生とが互いに打ち解け合うことができた。その後、参加者全員でのパーティーが開かれた。特に「ある、なしクイズ」では、班ごとのなかりの盛り上がりを見せ、なかなかの盛り上がりであった。この一日で、また新入生同士の間にも新たなつながりが生まれ、新入生にとっては充実した一日となった。

音楽才

去る四月十二日、新歓実行委員会主催、学術部門担当の由木オリが開催された。約四百人、上級生約八十人が集まった。スタッフは約四十人で、二月下旬から企画は始まった。今回はゲームの内容を新しくするなど配慮があり、一年生も早くうちとけようとした。当日はあいにくの曇り空であったものの、なかなかの盛り上がりであった。今後の課題としては、雨天の場合の校内でのオリエンテーションの充実である。また学術部門以外の上級生の参加にもっと力を入れたらいいのではないか。一年生にとっては学術部門に関心を持つ良いきっかけとなったようである。

審展

今年も四月十五日から二十日までに生協協賛室にて春展が開催された。今回作品を出品したのは例年通り美術部、華道部、写真部、やきものクラブの四団体。各クラブ趣向を凝らした作品を多数展示しており、談話室を華やかに彩り、環境や慣れない習慣の中に身を置かれ、心にゆとりが感じられる。写真、陶器といった素晴らしい芸術に触れれば、憂鬱がはりついた顔を微笑を取り戻せるものだ。作品を鑑賞して談話室を離れる人々の顔は、まるで春の笑顔であった。

学術研究発表会

新歓祭の一環として行われる学術研究発表会は学術部門に籍を置く八つの部によって今年も四月二十六日から二十八日の三日間で行われた。目的としては一年生に広く学術系の部に興味を持ってもらうために行われているのだが、この発表会は最後に観客によつてその成果に評価がくだされるため、どの部も高度な研究内容となつてきている。しかしながら、OHPをはじめとして黒板、スライドなど駆使し非常によく説明されたため、大変わかりやすかつた。今年度の優勝は生化学研究部であったが、他の部を含め、年々レベルは向上しているようである。

教授昇任

山川敏郎先生 土橋朗先生

昨年度の大熊誠一教授と原昭二教授の退職に伴い、教授不在となつていた第二生化学研究室教授に山川敏郎先生、第二薬化学研究室教授に土橋朗先生の昇任が決まった。教授昇任にあたり、両教授に教授になった感想、また東東生に対して思うことなどのお話を伺った。

第二生化学研究室 山川 敏郎 教授

第二薬化学研究室 土橋 朗 教授

大学で働く者の仕事として研究と教育とその他に大学管理とがある。教授となり、教授の一言一語に責任を負う。大学管理における責任はますます重くなった。教室運営も円滑に行つていきた。また、教室として行うべく学部学生、特に卒論生の教育、また院生の教育にも力を入れたいと思つていきた。現在の学生は、もう少しスチールが大きい、もう少し考える。全体として、単位を一つ一つこなせばよいという考

けもの道

東東には二つの「けもの道」がある。一つは通学バスを使う人が普段使っている百七段の階段のことを指して言う。これに対してもう一つの「けもの道」というのは部室棟と研究棟を結ぶ三号道路の中程にある草むらや横切ることによって、それが、それはきんぎょと舗装された道路。文字通りの「けもの道」である。しかし、この「けもの道」はバスを利用しない学生にとっては大変便利な道であった。という京王グラウンドをほぼ半周しなくてはならないのに対し「けもの道」はグラウンドを介することなく平山小学校前の道に直接至ることになる。距離にして約三百メートルの短縮である。

けもの道

この土地の所有者が自分の土地を明確にするために無断で横切る学生に通行不可の意志を伝えるために柵を立てたのはこの所有者と連絡が取れないため柵を壊す。従つて現在「けもの道」は事実上通行禁止と言わざるを得ないだろう。

卒試結果

平成三年度本学卒業試験の結果は以下の通りである。

受験者数：五三一名
満点：四〇〇点
平均点：二〇九・九五点

卒試は卒業するための学力の有無を測る重要な試験である。したがって、また一方で薬剤師国家試験に向けて自分の学力を客観的に見るためにもその結果は大変重要な意味を持っている。学校側も卒試結果を「得点が六割前後の者は国試

選管決定

第三回自治委員会において平成四年度執行役員選挙の選挙管理委員会

委員長 平田尚人
副委員長 小澤和弘

この選挙で執行委員会委員長及び副委員長を決定することとなる。ところで、この執行役員選挙は、この数年非常に投票率が低い。考えられる原因として選挙管理委員会を含む自治委員会の宣伝活動の不足が挙げられる。選挙があることを知らなければ投票など出来なない。もっと大々的に選挙をアピールすべきである。また、学生側ももっと真剣に責任もかかっています。他人の責任もかかっています。苦難を越えたい人は一回り大きくなるという大台に乗るの一年が目標です。(責任者)

編集後記

☆今回は実習試験と締め切りが同じ日だった。その日はとても辛く厳しい一日だった。この日を無事乗り越えたいと自分がかまひりまわった大きくなったような気がした。新聞会って本当に素晴らしいとおもった。(酸鉄伊伊面)

※責任者となつて一月を過ぎようとしています。他人の責任もかかっています。苦難を越えたい人は一回り大きくなるという大台に乗るの一年が目標です。(責任者)

新聞会執行交代

四月一日をもちまして、次のように執行交代を行いましたので、お知らせ致します。

会長 二川 祐政
副会長 高橋 慎也
編集長 浦野 慎也
会計 奥津 あや

これからも、より読み易い新聞作りを目指して活動していきます。よろしくお願いいたします。よろしくお祈りいたします。

なお、新聞会では今年度から「御意見箱」を設置することを計画しています。この「御意見箱」というのは読者の皆様から二種類のことを投稿してもらうために設置するものです。その一つは新聞委員が見落としがちな、ぜひとも新聞に取り上げてほしいと思つたこと。そしてもう一つは私たちの新聞に対する感想です。

新聞会では出来るだけ皆さんが本当に知りたかと思つて記事にしていきたいと思つています。御協力をお願いします。なお、具体的な内容は次号にてお知らせ致します。

薬展

六月一日から五日まで薬展が開催されます。共立薬科、明治薬科との合同による絵画の展示を展示します。一度足を運んで下さい。時間は午後一時から五時まで。場所は多目的ホールです。